

パブリックオープンスペースとしての都市内河川の活用可能性に関する考察 ー福岡市那珂川を事例としてー

福岡大学工学部 学生会員 ○梅寄大樹
福岡大学工学部 正会員 柴田 久

福岡大学工学部 正会員 石橋知也
九州大学大学院 学生会員 佐藤直之

1. 背景および目的

平成18年度、福岡市は地域との協働で「博多の水辺空間魅力創出事業」を企画し、国土交通省「ソフト事業とハード事業の連携施策に関する調査」に採択された¹⁾。これを受け、地元商店街、企業、まちづくり団体、行政等の参加により「博多の水辺にぎわいのまちづくり検討会」を発足させ、福岡市街地を流れる那珂川と博多川を中心に、水辺のまちづくり将来イメージ、社会実験計画、まちづくり組織の設立および運営体制の検討を含む「博多の水辺にぎわいのまちづくり構想」を策定するに至った。なお、筆者らは上記検討会（現、博多の水辺協議会準備会）に所属し現在も継続的に活動に関わっている。

本研究では、全国の先進的な取り組みを参考にしつつ、河川空間の質的向上を目指した整備に留まらず、官民の境界を越えた都市内河川空間の活用可能性について福岡市那珂川を対象に考察を行うことを目的とする。

2. 研究の進め方

本研究ではまず、国内における河川空間の活用状況について概観するため、既報の文献や先行研究で対象とされた事例を整理した。さらに、それらの事例の中から先進的な取り組みと思われる事例（2都市）を選定した。この2都市に対して現地踏査と関係者ヒアリングを行っている。一方、本研究で対象とする福岡市那珂川において行われた社会実験と、その際に実施された利用実態調査の結果を整理した。最後に、先進事例から抽出された河川空間の活用の要点を踏まえ、那珂川における今後の河川の活用可能性について考察を行う。

3. 河川空間活用を巡る全国的な状況

前述したように、今日の河川を活用した都市の再構築に際しては、河川空間の質的向上のみならず、沿川市街地と河川との一体的な整備が求められている。そのような中、河川整備と沿川まちづくりが一体となり、良好な河川空間の整備が行われている事例について次のように整理できる²⁾。1)河川管理者とまちづくりの主体となる市

区町村等が一体的な計画（地区レベルの計画）を策定するケース。2)地区レベルの計画の有無に関わらず、河川管理者による河川整備事業と市区町村による沿川まちづくり事業が同時に実施されるケース。3)市区町村の行政内に河川担当部局等が設置されることにより総合的な事業が展開されるケース。ここに、10を越える先進事例の中から既に一定の評価を得ている、徳島市・新町川の取り組み、広島市・京橋川の取り組みを選出した。

4. 先進事例調査

(1) 先進事例調査の概要

前章で選出した2都市における河川空間の活用事例を対象に、現地踏査と事業関係者に対するヒアリング調査を行った。現地踏査では河川とその周辺の整備状況を確認した。また、ヒアリング調査の対象者は表-1に示す通りである。

(2) 徳島市・新町川の取り組みについて

新町川では、NPO法人新町川を守る会を中心に、河川清掃活動および河川遊覧が10年以上に渡り継続的に実施されている（写真-1）。市は上記の活動を容認し支援体制を敷いている。また新町川を利用したイベントも多数企画されており、市民が河川空間で活動する状況が自然と生まれている。

(3) 広島市・京橋川におけるオープンカフェについて

京橋川には、独立店舗と地先店舗の両方の形態のオープンカフェが沿川に点在している（写真-2）。ここではオープンカフェ事業のスキームが確立されている。河川

表-1 ヒアリング対象者一覧

ヒアリング対象者		対象者に関する説明
徳島市	徳島市 企画政策局 企画調整課 主事	ひょうたん島水と緑のネットワーク構想、将来像「心おどる水都・とくしま」の策定など、水の魅力を活かしたまちづくりを進めている。
	NPO法人 新町川を守る会 理事長	川の清掃、周遊船運航、水辺のコンサート、毎週一回の土手づくり、寒中水泳大会等の活動があり、新町川を拠点としている。
広島市	広島市 都市活性化局 観光交流部交流課 専門員	水の都ひろしま推進協議会の事務局で「水の都」を目指し水辺のコンサートやオープンカフェ等の実験的な取組を実施している。
	ひろしま川通り 活用委員会 通称CAQ 代表	河岸緑地での清掃、草刈り、映画上映会、有料の野外クラシックコンサート等の活動があり、太田川基町環境護岸を拠点としている。

管理者である県はカフェ利用に対して占有許可を出し、市は市民団体、地元商工会、学識者、行政等の参加した「水の都ひろしま推進協議会」の事務局を務めている。カフェ出店者からは一定の協賛金を回収し、カフェ空間に関するソフト・ハード両面からの環境整備にそれを充てている。

5. 那珂川河畔オープンカフェ社会実験と利用実態調査

(1) 社会実験の概要

2008年10月4日より10月31日までの約4週間に渡り、福岡市街地を南北に流れる二級河川（福岡県管理）的那珂川河畔にてオープンカフェの社会実験が実施された（図-1、写真-3）。このカフェは河川敷に隣接した民間事業者の民有地と地先河岸緑地とを一体利用する形態である。本実験の目的は、憩い・賑わいの空間を創出するとともに、継続実施に向けた仕組みづくりである。カフェ運営主体は民間であり、占有許可申請等の手続きは市が行っている。なお、カフェは社会実験期間終了後も継続実施されている。

(2) 利用実態調査の内容

社会実験実施中にカフェ利用者に対するアンケートを実施し、カフェの利用理由やカフェの効果等に関する質問を設定した。一方、カフェ付近を通行する歩行者へのヒアリング調査を実施し、那珂川周辺の環境に関する意識を把握した。

(3) 調査結果

カフェ利用者に対するアンケート調査結果（一部）は表-2、カフェ付近の歩行者へのヒアリング調査結果（一部）は表-3に示す通りである。

6. 那珂川における河川空間の活用可能性

カフェの利用理由として「開放的だから」「眺めが良いから」という回答が半数以上を占めている。また、歩行者へのヒアリングにおいても「川の眺めが良い」という回答が最も多かった。これらのことから那珂川における「川を眺める」活動への期待が窺える。また、カフェ利用者の「眺めが良いから」という回答の多さからは、カフェという付加価値によって川への魅力が創出されることにつながったと推察される。先進的な事例では、川辺のパブリックオープンスペースを映画上映やカフェ等に利活用することで、河川空間での活動に賑わいを与え、さらに市民からの関心や河川本来の魅力の再認識を促し



写真-1 徳島市・新町川



写真-2 広島市・京橋川

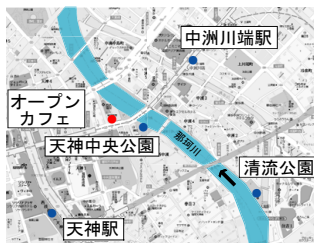


図-1 那珂川周辺の地図

表-2 利用者アンケート

■オープンカフェ席の利用理由	
外が涼しいから	32(31%)
眺めが良いから	53(52%)
川が近いから	25(24%)
開放的だから	69(67%)
緑があるから	21(20%)
その他: 目的地に近い、ペット同伴できる、日陰がちやうど良い、外国風、子どもがいるから	
■オープンカフェに期待する効果	
軽犯罪の防止	5(5%)
賑わいの創出	40(39%)
公共空間の有効活用	43(42%)
河川景観の改善	66(64%)
歩行空間の創出	18(18%)
その他: リラックスできる(5)、リフレッシュできる(2)、たばこが吸える	
■河畔のオープンカフェへの意見	
また利用したい(6)、このまま続けてほしい(6)、気持ちが良い(6)、パサッパサがほしい(6)、もっとこのような空間が増えてほしい(5)、居心地がよい(3)、川がきれいだと良い(3)、花壇に花がもっとほしい(2)、席を増やしてほしい(2)、暖房設備がほしい(2)、喫煙場所を離してほしい(2)、川向かいの公園をもっときれいに、雨降りの時の臭いには気を遣ってほしい、道路の騒音が気になる、カラスが気になる、眺めが良い、河川の横で大変良い	



写真-3 福岡市・那珂川

表-3 歩行者ヒアリング

■気に入っている所	
水がきれい	8(6%)
川の眺めが良い	38(28%)
ネオン街	12(9%)
緑・公園がある	28(21%)
休憩する施設がある	11(8%)
散歩に最適	9(7%)
川沿いの屋台・飲食店	3(2%)
川沿いのイベント	3(2%)
特にな	44(32%)
その他: 花がきれい(5)、近道(2)、ゆっくりできる(2)、鳥がいる(2)、涼しい(2)、職場に近い、夕焼け、潮の香り、水辺、貴賓館、であい橋	
■改善要望	
水をきれいにしてほしい	40(29%)
景観を良くしてほしい	9(7%)
ネオンを増やしてほしい	2(2%)
緑・公園を増やしてほしい	11(8%)
休憩施設をつくってほしい	12(9%)
飲食店を増やしてほしい	13(10%)
散歩道を整備してほしい	1(1%)
イベントをしてほしい	5(4%)
特にな	31(23%)
その他: ゴミ減少(9)、違法駐輪(9)、水量増加(5)、街灯増加(4)、ホームレス対策(4)、治安改善(2)、樹木等の管理(2)、河川敷有効活用(2)、水辺に近づける、屋台街清掃、橋増設	

ている。那珂川においてもその場所性に即した付加価値を与えることが活用の鍵になると考えられる。

謝辞

本調査では、徳島市、広島市、NPO 法人新町川を守る会、CAQ、福岡市、博多の水辺協議会準備会ほか多くの方々にご多大なるご協力をいただいた、ここに記して謝意を表します。

参考文献

- 1) 博多の水辺にぎわいのまちづくり検討会：博多の水辺空間魅力創出事業・報告書、2007
- 2) 財団法人リバーフロントセンター編：河川を活かしたまちづくり事例集、技報堂出版、pp.12-16、2002